
わたしのママとパパ

林田くう

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

わたしのママとパパ

【EZコード】

N4637Y

【作者名】

林田くう

【あらすじ】

「わたしのママとパパはすっごく、すんごく！らぶらぶです」娘視点の両親のラブラブ劇だつたりする。あの物語の続編・・・か！？

不定期に更新、バカ夫婦が見たい方はどうぞ。
(ラブラブすぎて見てる方が恥ずかしかつたりする。)

今日は、桃のタルトを

「それじゃあ、行つてくる

「こつてらつしゃい

ママヒパパが行つてきますのチューをする。

「あー！あー！みーにもー！みーにもチューしてー！」

パパはこりと微笑んでみーのほっぺをする。

「えー！…なんで、ほっぺなの？！」

ふんすかと怒つてみるけど、パパは微笑だまま顔に手を当つて

「ほ、ママとだけだからね

「もつ！パパつたら・・・・・・・・

「ママ、ママペが赤くなつてゐるよ・・・・

ちよつと、意地悪でこつてみただけなのこママつたら、ほっぺを両手で隠して

「えー・・・」

「む～ママ、嬉しこのか・・・? な、ひ、ひー度してあるみつか・・・

・

「もひー!..パパは早く行かないと遅刻しますよー..」

「しかたない・・・では、行つてぐる

「行つたらしあしゃーーー!」

パパは笑つてお家を出たると、隣で手を振つていたママは「よし。とか、言つてみこのお弁当を作りに行つた。

「まやまやひき、おはよ!」

「みつひきんーーーおはよ!」

この子は、お友達のまやひきん。みことひきんも仲良しーーー。

「昨日のドリマみたあ?」

「ひひん。見たかったんだけどね。ママたちがわあ、早く寝なさいつて」

「まやまやひきんーーー!」

「あらこよねー、ママたひは遅くまでおあてのうてたる

でも、時々ヘンな音がするんだよね。

ママたちに言つたら、氣のせいってゆーけど、ママの様子が可笑しかつたから、絶対何があるもん！！

「でも、みつちゃんのパパってカツコイイよねー！いいなあ～」

「でも、パパ、ママが大好きだからこつもみいヒママの奪い合っこてるよー」

「ほんとー？」

「ママが好きだからダメ」ってゆーもん。
だって、みいがパパのお嫁さんになりたいつていつたら、
「パパは

「そーいえば、みつちゃんのパパの名前ってなあに? ?」

「んーとね。晴彦だよーーはるひー」

夜

「佐山君！ 今日は飲んで帰らなーいか？」

「すみません。娘と妻が待っているので」

「ははあー。佐山君の愛妻家は筋金入りだな。」

「すみません」

「いやいや、奥方を大切にするのはいいことだ」

「では、失礼します。」

「ああ。」

今日は暖かいな・・・。

「ケーキでも買つていいくか・・・」

やはり、ここは定番のショートケーキか・・・。

でも、ママはタルトやパイが好きだから、どちらかにしよう・・・。

あー、だが、みいは・・・。

まあいい。桃のタルトにしよう。

今日は、桃のタルトを（後書き）

パパの優先順位が・・・（普通逆だよね）

「もーーーー！パパばっかりずるいい～！～！」

「当たり前だ。ママはパパのものだからな」

が隣で寝るのに！—普通、みいざるこよー！パパ昨日もママの隣で寝てたじやんか！—

布団の上で3人正座して、ママの取り合いつこ。

「やだやだやだーー！パパ、ママにべつたりしゅせーー。今日だつてみいの好きなショートケーキじゃなくて、ママの好きなタルト買つてきたじやんかあーー。」

「 その 何 が 悪 い 」

普通、みいが優先でしょ！！」

「誰かそんなこと決めたんだ？」

みには、悔しくて目じりに涙を溜めて反論した。

「おまえ、おまえの家ではない」

たもん！！

「だつて、まちひきのとお家だつて、ママと一緒に寝ねてゐて

「う・・・うわあーーん！ー！もうー！パパなんか大っ嫌いー！」

泣き叫んで、ママにしがみついて。

「もう、パパ。大人気ないですよ」

「ば、パパは別に・・・」

「うわあ――ん、あ――ん。」

105

ママはみにをしつかりと抱きしめて赤子のよひをもじして貰ふ。

でも、それを見たパパは一気に不機嫌な顔になつて

「じゃあいい。ハハは自分の部屋で寝る」

そのまま、寝室を出て行つた。

ナガセケンイチ

みいは心中でガツツポーズをした。

やつたあ――――――！パパがどつか行つた！――やつた、やつた、ママと寝れるう～。

「かみこみほぐし」と書かれた「あせじか」

「うん……」

「……なんだか、今日はテレジヨン上がるな～

やつと、ママと寝れたんだもん……嬉しいで嬉しいで……へへ

あ……パパが起きてきた

「パパ、おはよう

「ああ

・・・あれ？

ママの頭上にマークが浮かぶ。

おかじこな・・・・・こつせなう」ひめ、ママ。今日はかわいい

「ん

とか言つて、おまけのチューをするの、今日は返事をするだけ
ろかチューもしないなんて・・・

パパ、怒つてるのかなあ・・・。いや……でも、今日は絶対、ぜー
ーーつたい、パパが悪いもんー！

ママの髪の毛をチラシと見れば、ば

これは・・・ヤバイ。

と言つた凄まじい剣幕でパパを見ていた。

『アラビア語の歴史』

いつもなら、ママの料理は相変わらずおいしいよ」とか言うの……。

嘘でしょ ・・・ パパなんかおかしいーー！

いや、違う違う・・・。普通がこれなんだ！！パパがちょっと特殊なだけで、世間ではこうなんだよ！！うん。だまされちゃだめだ。絶対に謝らないもん！！

「では、いつ来る」

「あ・・・」

いつものようにママは玄関までお見送りに行くけど、パパは何もな
いようこそ家を出てしまった。

玄関で呆然と立ちすくむママ。

「・・・・・」

・・・？ママ？

ママの視線の先が気になつてその方向を見てみると、テーブルの上には今までかかすことのなかつたパパのお弁当が置いてあつた。

「・・・。」

「あ・・・の。ママ・・・？」

「あー・・・うん。お弁当ね・・・。」

ママ、悲しそう・・・？

足取りがなんだかふわふわしてて・・・

どうしよう。どうしよう・・・

とんでもないことに気がついた！――

しょうがないから・前編（後書き）

パパ・・・大人げ、なさすぎでしょ・・・。

しょうがなこから・後編

「おはよう。……あれ? みつかん、元気ないね。どうしたの?」

「……パパとケンカしたの」

「どうして?」

「……」

パパが悪いんだもん。

みーは。全然。悪くないもん……。

「みつかん……? なにてるの?」

「わわわわと、同じくの組の子が「どうしたの?」と、近寄つてくれる。

「う……ん……」

必死に涙をこらえているが、先生がくると我慢せざるにこられなかつた。

「せんせー……どうよお……」

「みつかん? と図書館こいつか?」

みこち、先生に連れられた図書館に行つた。今の時間は誰もいない。

「みくちゃん、どうして泣いているのかなあ？」

「みこ……セーで……ママとパパが……

そこから、涙がつまつこえない様子だった。

「じゅあんおひご歸る。」

「わからぬ」

「んー。じゃあ、みくちゃんのママとパパはどこでケンカしたの？」

「う。うぐ……えと……。」

言おうとした瞬間、あの時の記憶がよみがえり、また泣き出しちまった。

このまま、ママとパパが『コロン』しきつたり、ベーしきつ。みー、絶対嫌われるう・・・

「とつあん、今日おひごおはなししきみつか?」

「すみません。ちょっとそれこな」と……」

「どうですか。とつあえず、お家で話しあつてみて下さいね

ママが、幼稚園でお迎えに来てみいは、帰ることになった。

自転車の後ろに乗りママの背中しきゅうとじがみついた。

「パパ、怒つてるよな

「すねてるだけよ

「だつて……」

朝、全然へんだったもん。絶対、絶対怒つてるもん。

「ママ、あのねー……」

たぶん、こうしたらゆるしてくれるよね……。

（ママの心の内）

やはり、昨日は大人げがなを過ぎたか……。

夜、パパは色々考えながら帰り道を歩いていた。

みいは、まだ子供だしそんな子供とママを巡つてケンカしたなどと

「こんな話があるわけがない……。謝りや。うん。

そして、意を決して扉を開けた。

「ただいま」

ガチャリという音がして、扉が開く。

「お帰りなさい」

玄関に立っていたのは、ママだけであった。

「あれ？ みいはどうしたんだ」

「伝言を預かっていますよ。『しょうがないから今日のどひるはパパに譲つてやる』ですって」

「……みいが」

「パパなんか大っ嫌い！！！」

などと、言っていたのに。

パパの口元に笑みが綻ぶ。

「わうか……では、今日は？」こういふのだ？

「おばあちゃんの家に泊まるんですって。」

「……なるほど」

突然、パパの笑みが妖しくなり、それに気づいたママは、後ずさる。

「そうだ、ママ。今日の朝の口付けがまだだったね」

「え？ あー・・・ そうだったかしら？」

パパの目線から逃げるが、後頭部をつかまれ、濃厚なキスを受ける。

「う・・・ はあん」

「逃げても、ダメだよ。千代・・・」

「う・・・ う・・・」

「久しぶりに一緒にお風呂にでも入るつか

お姫様抱っこをされ、風呂場へ直行する。

ママも、抵抗はしているがパパはちゅーのつべー機嫌をんだつたので、なすすべもなかつた。

そのあと、ママはパパに捕食されました。

しょうがないから・後編（後書き）

パパ・・・。あなたつて人は・・・。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4637y/>

わたしのママとパパ

2011年11月17日17時17分発行